

# 日本の復興とともに歩んだ50年、 チャレンジする青春は、 いつだって美しく新しい。

戦争によって、廃虚と化した日本で、人々の復興への努力は並々ならぬものがあった。無法秩序ともいえる混乱の中から、どんなカタチで秩序ある社会を作りあげたのかを知ってほしい。経済活動を活発にするために様々な法改正がなされたが、中でも税制改革に伴う「経理」の重要性は大変大きなものとなっていた。本学は、そんな1946(昭和21)年、青年団体の社会教育活動の二環として、ここ横浜の地に誕生した。

## 戦前から教育活動に専念

その頃は、小(国民)学校6年(一部はその上の高等科2年)を卒業すると、すぐに給仕、住込み店員、そして工員となって働く人がほとんどで、中学への進学者は、ごくわずかだった時代です。それが戦時体制への移行によって、こうした若年労働者に対し、はじめは夜間、途中から昼間の午後に、中学と同等の教育と卒業資格を持たせる青年学校制度ができたのです。私は軍需工場に勤めていたのですが、学生時代8年間のボーイスカウト経験が縁で、たまたま横浜市教育部長の要請を受け、地元の青年学校の教壇に立つことになりました。青年学校は、地域の青少年に対する社会教育の担当も兼ねていたため、私は、

## 終戦直後の混乱期

敗戦で広島から戻ってくると、横浜は廃虚同然。被爆地、そして関東大震災や先頃の阪神大震災の被災状況そっくりの惨状で、人々は、その日食べるのが精一杯でした。港西青年進交会の設立と  
経理・税務教育の開始

## 港西青年進交会の設立と 経理・税務教育の開始

そんなある日、偶然、前述の青少年団の活動仲間と再会したのです。それもヤミ市でバッテリーとね。早速、有志12人(当時の計理士や小学校の教員もいました)が集まり、街の復興のために、自分たちが

とやるのです。その上で、従来からある基本原則をしっかりとしたきこみます。また、マイクロエレクトロニクスの技術革新によって、経理分野に限らずあらゆるビジネスシーンに、パソコン、イン

ターネット、そしてイントラネット等が登場し、その環境は劇的な変化を遂げています。こうしたものに対しても、本学は、常に新しい情報と設備を採り入れて、その対応ができるようにしているのです。

学校法人 田村学園  
横浜経理専門学校 校長 **田村 正**



大正4年  
二代目横浜駅ここに設置。

昭和21年  
横浜経理学校を創立。

たばこ ピース7円。  
日曜祭日のみ発売  
日本国憲法公布

昭和22年  
港の見える丘 流行歌

昭和25年  
伊勢佐木町に校舎移転。

昭和29年  
ゴジラ スクリーンに登場。  
大いに暴れる。

昭和33年  
インスタントラーメン誕生

昭和35年  
南仲通に校舎移転。  
横浜市の職業訓練委託校となる。

ダッコちゃん流行る。

昭和36年  
地球は青かった  
巨人・大鵬・卵焼き  
スーダラ節  
上を向いて歩こう

昭和39年  
東京オリンピック開催

新幹線東京・新大阪間開通

昭和41年  
ビートルズ来日  
ウルトラCからウルトラマン時代。

昭和43年  
神奈川県(後に雇用促進事業団)の委託校となる。  
伊勢佐木町ブルース流行る。

昭和44年  
アポロ11号月面着陸。  
ブルーライト横浜流行る。

昭和46年  
仮面ライダーTV画面に登場。

昭和55年  
現在の高島町交差点に校舎を移設。

昭和57年  
本館舎屋増築完成。  
横浜で初のワープロ教育開始。

昭和58年  
「みなとみらい21」着工。  
2000年目標

昭和60年  
横浜経理専門学校となる。

科学万博つくば85開催  
平成元年  
現在の学科に編成。

横浜博89開催。

平成4年  
雇用促進事業団からの受託により  
中高年マスターコース開始。

平成7年  
ペンティアムパソコン70台設備更新。

平成8年  
インターネット教育開始。  
建設業経理事務士講座開始